



さくら花

笑顔満開さわやか角小

重点：4つのあ

- あいさつ ●あんぜん
- あい読書 ●あとしまつ

+ 「何かできらり」
美しく正しいことば

H30年7月13日（金）発行



授業参観・講演会にたくさんの参加ありがとうございました!



岸田ひろ実さんを囲んでみんな笑顔のスナップ

7月5日(木)のPTA学習参観にはたくさんの保護者の皆様に来ていただきありがとうございました。学年によっては、親子レクリエーションのために午前中から参加いただきました。今回は講演会に6年生、5年生の学年親子レクリエーションもあり、盛りだくさんの内容になりました。午前中から1日日程で参加いただいた学年もありましたがたくさんの保護者の皆様に参加いただきありがとうございました。また、岸田ひろ実氏による講演会へも、5・6年児童の他、200名近い保護者の皆様に参加いただきました。講演後岸田さんからは、「子供たちが真剣に聞いてくれて、純真な姿に感動しました。」とおっしゃっていただきました。

さて、4月の入学・進級から早3ヶ月あまり過ぎましたが、授業等を通して、お子様の成長の様子が見られたでしょうか。また新しく学級編制替えのあった学年も、クラスの仲間同士や担任にもすっかり馴染んで授業に臨んでいる様子も見ていただけたことと思います。

特に1年生は、4月の入学式直後の参観日以来の授業参観でした。授業に臨む姿勢や発表の仕方、話型などを少しずつ身につけ、すっかり小学生らしい授業態度が身についてきた様子をご覧いただけたのではないのでしょうか。他の学年の子どもたちも、1日1日新しい学習や活動に挑戦し、どんどん成長している子どもたちです。夏を間近に控えた子どもたちの生き生きとした元気な姿、授業に集中し、参加している姿、友達と仲良く活動している姿など学校での生活・学習の様子を垣間見ていただき、この機会に子どもさんの頑張りや成長を賞揚していただければ、参観日開催の目的にもかないます。また、学校生活や授業等の参観を通して心配や不安な点がありましたら、いつでも対応いたしますし、夏休みに開催される保護者面談等で遠慮なくご相談ください。



岸田ひろ実さんの講演を聞いて ～子どもたちの感想から～

○ 私は、障害者を見るとかわいそうだなあと感じていたけれど、障害があるからこそ、その人の目線で何かでき、そこをもっといろんな人が使いやすくていい。だから障害は悪いことばかりじゃないと思えるようになりました。そして障害者との壁をつくらず、障害者だからという理由でその人と接しないという自分の心をなくそうと思いました。そして自分ができることは、困っていたら「お手伝いできることはありませんか？」と声をかけて、助けてあげようと思いました。

○ ぼくは障害のある人たちが車いすに乗っているとき、いろいろできないことがあり大変だなと思いました。もし自分がこんなふうになってしまったら部活なども何もできないので今障害がないのが幸せだと思いました。町に買い物に行くことがあるけれど、そのときにたまに車いすに乗った障害のある人に会うことがあります。そのときぼくは気遣いをしなかったことがあったので、今度会うときは気遣いをしながら暮らしたいと思いました。岸田さんの話を頭に入れて生活したいと思いました。

○ 私は、障害者を見ると「怖い」「かわいそう」と感じてしまいます。でも岸田先生のお話を聞いて、障害者だからできること、車いすの人の目線で見えることなどいいところがたくさんあるのだなあとと思いました。そして障害者の見方が変わりました。私が一番印象に残ったのは、いつでも笑顔でいることです。「つくり笑顔でもいい。」「うその笑顔でもいい。」と、いつでも笑顔でいてほしいという岸田先生の思いがとても伝わってきました。そして演題の「ママ、死にたいなら、死んでもいいよ」というには深い深い意味があったのだなあとお話を聞いて分かりました。こんなことを言う子どもはひどいんじゃないか、親がかわいそうだと思いました。でもひどいんじゃない。ママの気持ちを分かっていったんだなあとと思います。「何かお手伝いできることはありませんか」という相手が答えやすい声かけもがんばろうと思います。すてきなひとときをありがとうございました。この講演会を一生忘れません。

保呂羽山宿泊学習に行ってきました～5年生

7月11・12日と横手市大森にある保呂羽山少年自然の家での宿泊学習を実施してきました。緑たっぷりの自然の中で、友達と存分にかかわり合って、パワフルに活動し2日間のメニューを元気いっぱい頑張ってきました。

一日目の最初のメニューはプロジェクトアドベンチャーです。施設内外で、協力して成し遂げることが要求されるプログラムをグループやクラスで挑戦します。思いを一つにして協力することの大切さを体験します。そのあとは野外炊飯でカレーをつくりました。初めて飯盒で炊くごはんに悪戦苦闘。同じ材料でも、味も見た目も？様々なカレーではありましたが、野外で食べるカレーは格別のような感じでした。夕食後に、暗くなって実施されたナイトハイクは子どもたちが一番楽しみにしていたプログラムの一つです。夜の暗闇、自然の家周辺の森の中のコースをまわる活動です。男女10人ほどの班に提灯だけ、暗闇の中にかすかに見える案内板だけがたよりです。ろうそくの明かりだけを頼りに、森の暗闇の怖さに耐えながらコースを見つけ前進します。森の中に「キャー」という声をあげながら、手を握ったり、声を掛け合ったり、助け合い、励まし合いながらすべてのグループが30分から40分程でゴールできました。ゴールに辿り着いたときは、みんなほっとしたのか、歓声をあげてのゴールでした。

二日目は、朝方の雨も上がり、天気も良好で、カヌーのできる沼まで歩いて移動し、カヌーを満喫しました。中には泥だらけになって返ってきた児童もいたようでしたが、シャワーを浴びてリセット。昼食後は、竹細工(箆)づくりに集中しました。

二日間ではありましたが、自然の中での生活で、友達と交流する楽しさ、協力の大切さ、がまんの大切さなど学んで、クラスの絆を深め、ひとまわりたくましく15年生となって戻ってきました。

